

短期大学における保育者養成の在り方についての研究 —短大保育科卒業生のアンケート調査から短大の保育者養成の在り方を探る—

中山 正雄・瀧口 優・花原 幹夫・小松 歩・
源 証香・長井 覚子・佐藤 文・宮崎 佑介

研究実績の概要

短期大学保育科では、四年制大学を設置した当時から短期大学の保育者養成の在り方について様々な検討をしてきました。学生の4大志向が強まる中で短期大学としての保育者養成に求められる内容を考え工夫や改善、改革に取り組んできました。

本研究では、短期大学の保育者養成を担う専任教員が協力して、2019年度と2020年度の2年間にわたり短期大学での保育者養成のために必要な教育内容の改革内容を研究することとし、二つの調査を行って具体的な改革の提案を行うことを目的としています。

2019年度の調査研究では、一つ目の調査「卒業生調査」を実施しました。調査は、卒業生で住所の判明する990名を対象に調査票を郵送しました。回収は、2020年2月末段階で164通（16.6%）でした。

回答者は、卒業後3年20人、5年12人、10年11人、15年29人、20年16人、25年19人、30年26人、35年25人、不明6人でした。卒業後15年以上は大学設置以前であり短大保育科の卒業生が毎年250人程度、10年以下は100～130人程度となります。回収率としてはどの年度も大きな差がないという状況です。また、回答者の都県別でみると、東京都102人（62.1%）、埼玉県28人（17%）、神奈川県8人（4.8%）、千葉県6人（3.6%）と首都圏が中心で、長野県4人、群馬県3人、山梨県3人。新潟県、山形県、栃木県、茨城県、岩手県、静岡県、長崎県から各1人、そしてカナダからも1人の回答がありました。不明は2人でした。

回答結果についての集計と分析は現在進めているところですが、回答者の卒業時の進路状況は、保育所関係89人（54.26%）、幼稚園40人（24.39%）、乳児院等児童福祉施設7人、一般企業4人、進学19人、他に留学、家事手伝い、大学職員各1人となっています。そして、現在の職場をみると、転職していないは47人、転職したのは86人、現在働いていない人31人となっています。転職した86人のうち54人の転職先が保育所関係、4人が幼稚園、そして小学校関係2人、医療関係2人、福祉関係2人等となっています。一般企業への転職は1人で、回答者の多くの職場は保育所及び幼稚園であることが判りました。

また、「2年間の保育士養成についてどう考えるか」の設問では「今後も重要な保育者養成機関として2年間での養成は必要である」の回答は130人で79.3%を占めており、「短大2年間の学びでは現場での保育を担うのは困難であり、3年制にするか四大化を目指した方が良い」の回答は32人の19.2%、無回答が2人でした。この回答の中に短期大学保育者養成に関する課題が含まれていることが判ります。詳細の整理は2020年度に行う保育所、幼稚園、児童福祉施設へのアンケート調査結果と合わせ、分析と研究の上で短期大学の保育者養成の在り方を提言する研究成果論文として報告する予定です。